

巻頭言：変わらない／変わりゆく図書館とともに	1
特集：神図協 この1年	
地域資料委員会、大学図書館協力委員会	2
研修委員会、広報委員会	3
連載：わたしのイチオン 横浜国立大学附属図書館「グローバル・commons」の設置	4
神図協事務局から 令和7年度人材育成事業 助成対象研修参加報告	5
神図協事務局から 令和7年度人材育成事業 助成希望者募集のお知らせ	6

変わらない／変わりゆく図書館とともに

企画委員長（横浜市中央図書館）

柳生 留美

令和7・8年度の企画委員長を務めております、横浜市中央図書館企画運営課長の柳生留美と申します。

神奈川県図書館協会をご存じの通り、昭和3（1928）年に設立され、令和10年には100周年を迎えます。公共図書館・大学図書館・専門図書館の各種の図書館が加盟し、県内の図書館活動の振興と利用者サービスの向上等のために多彩な活動をしています。公共図書館以外が加盟しているのは全国的にも珍しいようです。

令和7年度の企画委員会では、100周年を迎えるにあたり、記念事業としてどんなことができるかの検討を開始しました。

過去の周年記念事業における刊行物で私たちが触れられるものとして、60周年記念事業で発行した「神奈川のふみくら」という特別コレクション要覧があります。同じようなものは作れなくとも、何か後世に残り、図書館職員のみならず利用者にも提供できるものをと計画しています。

時代の変化に応じて、図書館をめぐる状況も変化しています。平成2（1990）年4月にKL-NETがスタートした当初、参加館はわずか42施設でしたが、現在では参加館は107施設、KL-NETでの相互貸借は107,084冊にのぼります（令和6年度実績）。また、AIやデジタル技術の進歩の結果、読書バリアフリーの取組をはじめ、多様な体験・サービスの提供も充実してきています。

100周年はひとつの節目であり、皆様と積み上げてきたものを大切にしながら、社会や時代の変化に合わせて新たな取組にもチャレンジを続け、図書館の魅力をさらに高めていきたいと考えています。

参考資料：「神奈川のふみくら」神奈川県図書館協会／編 有隣堂 1994.3

「神奈川県図書館年表 1978～1998」神奈川県図書館協会／編・刊 1998.11

地域資料委員会

地域資料委員会は、「地域資料に関するサービスの調査研究」を目的に活動を行っています。

令和7年度は、前委員からの引き継ぎを受け、今後2年間の活動方針を検討し、引き続き、研修会の開催を行っていくこととしました。当委員会では、近年、地域資料のデジタル化を課題とし、そのテーマに関する研修会の開催を行ってきましたが、それ以外にも取り上げるべきテーマはないか検討を進め、令和7年度は、「地域資料の整理保存にかかる現状と課題」をテーマとしました。各館が現状どのように取り組み、何を課題としているのか、参加者同士で自由に意見交換できる場を提供するため、会の名称も研修会から研究会に変更のうえ、開催しました。

研究会の前半は、県立図書館、座間市立図書館、横須賀市立中央図書館の3館から事例発表を行い、後半は、参加者が各グループに分かれ、地域資料委員も加わり、一緒に意見交換を行いました。意見交換では、各グループから保管スペースの不足、共通化された除籍基準の未整備、近年デジタル版に移行しつつある行政資料収集への対応等の問題が指摘され、各館共通課題であることが共有できました。

アンケートでは、意見交換の時間に対しての満足度が高く、各館の担当者が普段抱えている課題や悩みを意見交換できる場の必要性を改めて認識しました。

令和8年度は、本研究会で頂いたご意見を参考に新たな企画の検討を進めてまいります。



[委員長 横須賀市立中央図書館 柿原 美奈]

大学図書館協力委員会

大学図書館協力委員会では、「各大学図書館の日常業務等で今困っていること」を調査研究事項として、継続的に図書館運営に係る様々な問題について意見交換を重ねて参りました。

今年度も昨年度と同様、運営委員会を3回実施し、各大学図書館から集約した業務遂行上の問題点や疑問点に対する各館の取組やナレッジの共有により、各館の運営に寄与して参りました。利用者マナーや資料保全の関する日々の困りごとから、サイバー攻撃対策といった情報セキュリティに関すること、また、AIの利活用など、幅広い内容で意見交換を交わして参りました。

一方、電子ジャーナルの高騰や、2025年度以降公募の公的資金にかかる競争的研究費における学術論文及び根拠データの即時オープンアクセス（学術雑誌への掲載後、即時に機関リポジトリ等の情報基盤へ掲載）の義務化に向けた対応など、学術情報を扱う大学図書館ならではのトピックも多く、国立、公立、私立の垣根を超え各大学図書館相互で連携し、各館の課題解決に寄与できる当委員会の存在は非常に重要な場となっています。

また、大学図書館は、これまでのような資料保全を中心とした存在から、ラーニングコモンズとしての役割が大きく、資料の検索・閲覧だけでなく、データベースの利活用や、グループ学習や学生同士のコミュニケーションの場としての環境整備が進んでいます。そのような状況において、当委員会のように、中規模から大規模まで様々な大学図書館同士で意見交換ができるのは大変貴重な機会となっています。

オープンサイエンスの時代にふさわしい「デジタル・ライブラリー」の実現に向けた2030年までの大学図書館のロードマップが文部科学省から示され、今後、ますます大学図書館の意義と役割が多様化して参ります。そのような時こそ、当委員会の横のつながりを活かして、各館切磋琢磨して参りたいと思います。

引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

[委員長 相模女子大学附属図書館 黒井 由美]

研修委員会

令和7年度は、施設見学や集合研修を中心とした研修会を計6回開催しました。特徴的な図書室の見学会や様々なジャンルの講演会を企画した結果、いづれも多数の方に参加していただきました。

今年度の活動の概要は次のとおりです。詳しい報告はホームページをご覧ください。

(<https://www.kanagawa-la.jp/>)

回数	研修テーマ・講師（敬称略）	開催日
第1回	施設見学 「関東学院大学関内デジタル図書室」	10/17
第2回	【図書館総合展フォーラム】 講演 「ネットと生成AIの時代に、なぜ読書？なぜ図書館???～児童・生徒・市民が未来を切り拓く探究学習の支援のために～」 講師 梅澤貴典氏（中央大学職員・都留文科大学非常勤講師）	10/22
第3回	施設見学 「国立天文台図書室」	11/7
第4回	【神奈川県子ども読書活動推進フォーラム】 事例発表 「活動の紹介」 発表者 明治学院大学横浜図書室学生サポーター トークイベント 「本をつくる本を届ける～独立系出版社と本屋のはなし～」 講師 中岡祐介氏（三輪舎代表、生活綴方主宰）	11/29
第5回	講演 「ブックトークのきほん」 講師 清水千秋氏（東京こども図書館）	1/30
第6回	講演 「市民・図書館・オープンサイエンス」 講師 池内有為氏（文教大学准教授）	2/20

[委員長 相模原市立橋本図書館 原幸治]

広報委員会

今年度の広報委員会の活動を次のとおり報告いたします。

1 協会報の発行

記事執筆及び編集作業（執筆依頼も含む）を、令和7・8年度の2年度で、担当者に均等に割り振ることを心がけました。

(1) 協会報 291号（7月1日発行）

特集：令和7年度神図協総会報告

講演会概要、令和7年度人材育成事業

(2) 協会報 292号（10月1日発行）

特集：横浜市中心図書館再整備（リニューアル）

わたしのイチオシ ウィリング横浜情報資料室「福祉保健の専門図書館～よりそう図書館ひろがる福祉～」

(3) 協会報 293号（1月1日発行）

特集：「図書館総合展」ブース出展・フォーラム報告

わたしのイチオシ 東海大学附属中央図書館「ライブラリウムの4つのメインルーム」

(4) 協会報 294号（4月1日発行）

特集：神図協この1年の動き

わたしのイチオシ 横浜国立大学附属図書館「グローバル・コモンズ」の設置

発行にあたり、神図協各委員会の活動を取り上げるとともに、広報委員選出館の活動を知っていただくための広報誌づくりを進めてまいりました。

原稿をご執筆いただいた皆様には感謝申し上げます。ご協力ありがとうございました。

2 第27回図書館総合展への出展

令和7年10月22日（水）から24日（金）の3日間、パシフィコ横浜で開催されました。

今年度も例年どおり、アンケートの実施、スライドショーの上映等を行いました。

会場を訪れた来場者の数に圧倒されつつも、できるだけ多くの方に声掛けし、神図協の活動の周知に努めました。

広報活動は、息の長い活動です。継続していくことに意義があることと考えています。

次年度以降も、予算を有効に活用しながら、取り組んでいきたいと考えております。

[委員長 川崎市立中原図書館 古俣和明]

連載 わたしのイチオシ

横浜国立大学附属図書館「グローバル・commons」の設置

本学図書館では、令和5年度より「グローバル・commons」を設置し、国際色豊かな交流と学びが自然に生まれる場づくりに取り組んでいます。ポストコロナを迎え、学修環境や大学における交流のあり方が大きく変化するなか、図書館は「人と人、知と知をつなぐ場」へと、その役割を一層拡張しています。グローバル・commonsは、そうした変化に応える図書館の新たな挑戦です。

設置の背景には、留学生と日本人学生が日常的に交わる機会の少なさという課題がありました。授業や公式行事では顔を合わせるものの、気軽に対話し、互いの文化や考え方を知る場は決して多くありません。そこで、学内のほぼ中央に位置し、全学共通の施設である図書館の特性を生かし、国際戦略推進機構と連携して、誰でも立ち寄ることのできる交流拠点としてグローバル・commonsを整備しました。実際の運用は国際戦略推進機構が担い、図書館は「場」を提供するという役割分担のもとで運営しています。また、この取組は、本学の基本理念である「実践性」「先進性」「開放性」「国際性」に加え、「多様性」を具体化するための環境整備でもありました。

空間づくりにあたっては、「居心地の良さ」と「使われること」を重視しました。日本文化を感じられる畳スペースやソファを設置し、教室とは異なる雰囲気の中で、リラックスしながら過ごせる空間としています。これにより、初対面の学生同士でも自然に会話が生まれやすい環境を整えました。また、各国語で書かれた日本全国の旅行パンフレットや図書、漫画の配架、国際交流イベントや留学生就職支援に関するチラシの設置など、学生にとって有用な情報提供も行っています。さらに、壁一面に自由に書き込めるホワイトボードを設置し、思いついたアイデアを可視化し、共有できる仕掛けを取り入れました。

運用面では、留学生が自国の文化を紹介する「グローバル・カフェ」や、日本人学生が留学生と英語で会話する「Chat with 留学生」、日本の文化

や行事を体験する「折り紙ワークショップ」「七夕祭 in YNU」等、多様なイベントが継続的に実施されています。「七夕祭 in YNU」の際には学内にある認定こども園「森のルーナ」の園児にも声がけするなどして、留学生と日本人学生の国際交流にとどまらず、地域交流へとつなげることができました。また、定期的に留学相談窓口を設けており、気軽に相談ができる場としての役割も担っています。

こうした取組を通じて、グローバル・commonsは、イベント時だけでなく日常的にも利用される「居場所」として定着しつつあります。打合せや相談、資料の閲覧など、イベントがない時間帯にも人の流れが生まれ、図書館全体の滞在価値向上にもつながっています。図書館は、知の拠点であると同時に、人が交わるcommonsです。グローバル・commonsは、その可能性をあらためて実感させてくれる場所となっています。



グローバル・カフェの様子
(横浜国立大学附属図書館 森岡緑)

神奈川県図書館協会では、2018年に迎えた創立90周年を記念し、2019年度～2023年度までの5年間、「外部団体の研修へ参加する機会を増やし、会員の資質向上を図り、神奈川県全体の図書館司書の力量を高めることを目的」とする趣旨のもと、あらかじめ定められた研修に参加する際の経費を助成する事業を実施しました。

2024年度からは、継続事業として行い、本年度も実施したところ、当事業への応募者が1名おりました。この度、応募者より参加の報告がありましたので、報告書の一部を掲載いたします。

助成対象研修への参加報告書の全文は神図協 HP 「人材育成事業」のページに掲載されております。
(<https://www.kanagawa-la.jp/upbringing>)

本年度の助成事業全体についての報告は、令和8年度総会にて行う予定です。

【令和7年度全国公共図書館研究集会

<サービス／総合・経営部門> (静岡)】

日時：令和7年12月1日(月)～2日(火)

会場：静岡県コンベンションアーツセンター
グランシップ(1日目)

静岡県立中央図書館(2日目)

テーマ等：「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援」

助成対象者：1名(公共図書館)

参加内容：

<1日目>講演会：「公立図書館と新刊書籍市場の曖昧な関係：図書館の蔵書傾向および書店支援」講師 大場 博幸氏(日本大学文理学部教授)
事例報告：「静岡書店大賞：静岡県の読書推進に向けて」

調査報告：「人口減少社会における図書館と地域の関係性とこれからのあり方」

研究協議、情勢報告

<2日目>静岡県立中央図書館見学ツアー

講演会では、全国の平均的な蔵書傾向が示され、所蔵されやすい本・されにくい本がある程度可視化されているということがわかり、公立図書館における選書の大事な原則を、改めて考える機会となりました。書籍の定価購入やベストセラー本の所蔵数抑制は、地元小売書店支援になる可能性が高いと考えられますが、図書館側にとっては購入数の減少とサービスの低下を確実にもたらすため、覚悟が必要だそうです。住民に読書の機会をたくさん提供できるよう両方で協力していくことが求められているように感じました。

事例報告で紹介のあった静岡書店大賞については、官民が互いにできることを持ち寄って読書文化を守っていこうとする気概を感じる素敵なイベントだと思いました。

調査報告では、市町の図書館でも「図書館があることで地域に良い影響をおよぼせるとしたら、どんなアイデアがあるだろうか」ということを考え、小さなことでもまずチャレンジしてみることが大事だと思いました。

研究協議では、活発な意見が交わされ、情勢報告では、図書館業界全体の情勢として、購入冊数や資料費の減少などがあげられました。依然として業界を取り巻く環境は厳しいようです。

2日目は、見学ツアーに参加しました。子どもの読書活動を推進するための場が充実していると感じました。

普段の業務では知ることができない図書館と書店をめぐるトピックにふれることができ、視野を広げることができました。



写真：2日目見学先の静岡県立中央図書館
(報告者撮影)

令和7年度 人材育成事業 助成希望者募集のお知らせ

神奈川県図書館協会では、2018年に迎えた創立90周年時に、記念事業の一環として人材育成事業を企画し、5か年計画で実施しました（2019～2023年度）。令和6年度の総会において、今後4か年程度継続して実施するとの結論に至ったため、2025年度も募集を行います。

ぜひご活用ください。（本研修は、令和7年度中から募集が行われるため、令和7年度事業の対象研修として告知しております。）

この事業では、外部団体の研修へ参加する機会を増やし、会員の資質向上を図り、神奈川県全体の図書館司書の力量を高めることを目的に、会員のみなさまを対象に、2024年度～2028年度までの4年間、あらかじめ定められた研修に参加する際の経費を全額または一部助成します。

【助成対象者】

助成申請時から報告書提出時まで、神奈川県図書館協会加盟館に勤務する職員であること。

※前年度に助成が決定するものについて、異動等により受講時に助成対象資格がなくなった場合は助成を取り消すものとします。

【助成内容】

旅費及び参加費の全額あるいは一部（一人あたり上限4万円）。

なお、助成にあたっては、受講後に「受講成果報告書」を提出いただき、理事会で審議いたします。

【締切】

各対象研修の参加申込締切2週間前

詳細は神奈川県図書館協会ホームページ「会員のページ」の「R7年度」キャビネットをご覧ください。

【募集中の研修一覧】 先着順ではありません。

対象研修 ※（ ）内は開催地	開催日	対象研修の 参加申込締切 ※（ ）内は 助成申請締切	募集 人数
⑧図書館司書専門講座（東京） ※1	令和8年6月（10日間）	5月上旬 （4月下旬）	1名
⑨児童図書館員養成専門講座 （東京）※2	前期（6日間） 令和8年6月23日～6月28日 後期（9日間） 令和8年9月28日～10月7日	4月14日（火） （4月1日）	受講 決定者

※1 複数応募の場合、理事会にて選定を行います。

※2 対象研修の書類審査等で受講が決定した人を、助成対象者とします。（人数制限なし）